

4月の学校経営方針

【P強化】…「達成可能で具体的な目標を設定しよう！」

今月は、学校内で行われるすべての教育活動について、課題を明らかにしながら学校経営方針踏まえた達成可能な目標を設定し、取り組むべき具体的な方策を提示し、動き出す月である。すなわちマネジメントをスタートさせる月である。

「マネジメントは、20世紀の優れた発明品（ドラッカーのマネジメント等）ある。」と言われている。自然発生的に生まれたものではない。だから何もしないでマネジメントサイクルができあがるということはない。上手くマネジメントできないとか、上手く回らないというのは、マネジメントを理解し、正しく使っていないのである。そこで、本校の教育計画の実施に当たっては、PH・P（フェイズド・プランニング）手法を取り入れたマネジメントサイクルを推進していきたい。現在活用されているマネジメントサイクルは、PDCAサイクルである。これをベースにしながらPを5段階に分けて、取り組んでいきたい。

<PH・P（フェイズド・プランニング）手法>

- | | | |
|--|---|------|
| ステップ①：「現状」把握（どこにどのような問題があるのか等） | } | Plan |
| ステップ②：「原因」特定（原因を特定せずに行動してはならない） | | |
| ステップ③：「目標」設定（具体的に何をいつまでに達成するのか決める） | | |
| ステップ④：「手段」選択（目標を達成できる手段を企画する） | | |
| ステップ⑤：「集団意思」形成（①～④について認識・判断を共有する） | | |
| ステップ⑥：「実施」確保（手段は確実に実行されなければ意味がない）・・・Do | | |
| ステップ⑦：「結果」と「目標」の比較（結果と比較する対象は「目標」のみ）・・・Check
（⑦のズレが①となりサイクルができあがる。・・・Act） | | |

マネジメントが上手くできないのは、①～③の甘さである。引き継ぎが不十分なために①が把握できない、②を特定しないまま動き出す、③がスローガンので抽象的になっている、といったところが大きな原因である。正確に現状を把握し、原因を十分に特定した上で、達成可能な具体的な目標が設定されていなければ、教育計画が実行されにくくなるのである。

PH・P手法は、長期のマネジメントだけではなく、1時間（授業）のものから1週間、1ヶ月、学期、年間等で取り組むことができる。それは、③の設定で決まるからである。私たちが回避しなければならないのは、マネジメントを止めてしまうことである。目標が達成しなければ、再度原因を特定し、次の手だてを考えればよいだけである。ところが、現状把握が甘く、課題が低くなったり、高すぎたりしては、「手段」がマッチングしなくなり、比較できなくなってしまい、次に進めなくなってしまうのである。PH・Pマネジメントでは、目標が達成できなかったという「失敗」は、失敗ではなく、成功へのプロセスでしかないのである。「失敗は成功の途中！」といわれる所以である。

「現状」は正確に把握しているか、「原因」は十分に特定しているのか、「目標」が達成可能で具体的になっているか、目標達成につながる「手段」になっているか、関係者の「集団意思」を十分に形成しているか、を確認しながら実行に移していきたい。